



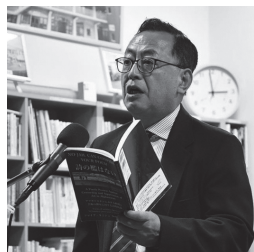
大田美和(おおた みわ)

歌人・詩人、中央大学文学部教授(英文学)。1980年代後半に「朝日歌壇」で全国の読者を獲得、歌集『きらい』でデビュー。愛とフェミニズムがテーマ。「女の平和」、『朝鮮学校無償化除外反対アンソロジー』、『詩の檻はない』に参加。代表歌に「チェロを抱くように抱かせてなるものかこの風琴はおのずから鳴る」など。



伊藤芳博(いとう よしひろ)

1959年生まれ。詩集『どこまで行ったら嘘は嘘?』(福田正夫賞)、『いのち/こぼと』(中日詩賞)、砂子屋書房版『現代詩文庫18伊藤芳博詩集』など9冊。散文集『いのちの籠を編む』など6冊。2003、04年8月、パレスチナ・ヨルダン川西岸地区に入域し、支援交流活動を行う。「世界の子どものための平和祭inベツレヘム」開催。



高細玄一(たかほそ げんいち)

1960年神奈川県藤沢生まれ。詩集「声をあげずに泣く人よ」2022年6月、「もぎ取られた言葉」2023年10月をコールサック社より刊行。声をあげられないひとの声になる。それが詩のひとつの使命だと思います。連絡先 ginngakei7@gmail.com



松下新土(まつした しんど)

1996年生まれ。作家・詩人。現代美術。パレスチナの詩人、リファアト・アル=アリーールの後継者にあたる新しい世代の作家、たちの紹介者。2023年10月7日のガザ空爆以降、日本におけるパレスチナ連帯運動の中心的存在の一人。



岡和田晃(おかわだ・あきら)

1981年生まれ。文芸評論家・現代詩作家、東海大学講師。評論集『「世界内戦」とわずかな希望』(日本SF評論賞優秀賞受賞作を含む、2013年)『反ヘイト・反新自由主義の批評精神』(北海道新聞文学賞佳作の改題、2018年)、詩集『掠れた曙光』(茨城文学賞、2019年)ほか著訳書多数。



黒川純(くろかわ じゅん)

(electronica・video) 多摩美術大学美術学部2部芸術学科映像専攻卒業。鈴木志郎康者に師事。30歳前半まで、音楽、自主映画製作活動(東アジア反日戦線 さそり 黒川芳正 獄中監督作品、1987年 母たち：ドキュメンタリーの撮影担当等)。以降30年近く創作活動から遠ざかる。コロナ禍を機に自作曲で動画を作りSMSで配信中。



ソマイア・ラミシュ(Somaia Ramish)

ヘラート出身、元ヘラート州議員。詩人・文学者・アーティスト。カーブルが陥落した日、ヘラートから国外へ身を移し活動を継続している。現在はオランダに在住。



桜井真樹子(さくらい まきこ)

声明・白拍子。龍笛を芝祐祐氏に、天台宗大原流声明を中山玄晋に師事。1997年より白拍子の復元を始め「鬢多々良」「水猿曲」「蓬莱山」「廻惚」など20年に渡り公演を続ける。2007年より創作能「マンハッタン翁」「橋の姫」「岸辺の大臣」「沖縄平家物語」などを発表。2019年よりハイパー能「睡蓮」「投石」「菖蒲冠」「長髓彦」を発表。



河津聖恵(かわづ きよえ)

1961年生。詩集に『アリア、この夜の裸体のために』『綵歌』(ふらんす堂)、『現代詩文庫183・河津聖恵詩集』(思潮社)、詩論集に『バルレシアー震災以後、詩とは何か』(思潮社)、『闇より黒い光のうたを一十五人の詩獣たち』(藤原書店)、『「毒虫」詩論序説一声と声なき声のはざままで』(ふらんす堂)。



塩原 庭村(しおばら ていそん)

長唄唄方。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。他に清元節、荻江節、小唄を学ぶ。また、大本山妙心寺大法院閑栖 松岡宗訓 師に入門、薫陶を受け「庭村」の号を賜る。自身の企画プロデュース公演をはじめ、近年の活動は多岐にわたる。日本の伝統芸術や音楽を尊重し、現代に生きる古典という塩原庭村独自の世界を生んでいる。



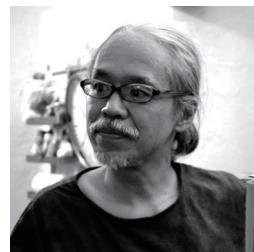
宮尾節子(みやお せつこ)

飯能市在住。2014年SNSで公開した詩「明日戦争がはじまる」の拡散で各種メディアで話題になる。既刊詩集に『妖精戦争』『ドストエフスキーの青空』『恋文病』ほか。近刊にはクラウドファンディング達成による『女に聞け』や、切り絵詩集『牛乳岳』。最新刊は初の散文集・佐藤幹夫氏との共著『明日戦争がはじまる対話篇』がある。



吉松 章(よしまつ あきら)

謡・舞。能楽の謡や舞を用いた自作に出演、演出。「温羅」「パタヤの売春婦」「マッチ売りの少女」「浦嶋太郎」「四ツ谷マリヤ」「疫病神」、桜井真樹子の創作能に出演。能舞台やコンサートホール、ライブハウス、路上や河原等、ボーダーレスに活動中。海外では、ロシア、アルメニア、カザフスタン、韓国にて、謡と舞を使ったパフォーマンスで参加。



ミシマショウジ

パン職人、兵庫県にてameen's ovenを営む。またパン焼きとともに詩を書く。詩集に『敷石のバリカーフルなざわめきの足音へ』(トランジスタプレス)、『パンの心臓』(トランジスタプレス)

2023年10月7日からパレスチナ・ガザにおいてイスラエル軍の侵襲が始まった。この侵襲計画は「第二のナクバ」と呼ばれる。イスラエルは、意図的に膨大なガザの人々の命を奪っている。ガザに限らずパレスチナ人の命、土地、すべてを消し去ろうとしている。たとえ日本の政府がイスラエルを支持しようと、4月22日に詩を朗読し、歌うものたちは、これ以上一人たりともパレスチナ人の命を奪う行為に抗議する。 桜井真樹子



※出演者名は2/1付のものです。